

明治大学アカデミックフェス2019

気候変動から考える持続可能な社会とは？！ —低炭素社会とESG投資の潮流から読み解く—



今後最も成長が著しい地域とされているアジアにおいて、経済と環境負荷のデカップリングは必須となっているが、その解決方法は未だ模索中であり、最も重要な研究テーマともいえ、わが国の貢献が期待されている。なかでも、地球温暖化を解決する低炭素社会の構築は長期的かつ全球的に取り組むべき課題であり、解決するための社会構造のあり方や具体的な制度設計などの課題・障壁を克服する必要がある未踏破の分野といえる。

本企画ではIPCCから提言された気候変動リスクから考える持続可能な社会のあり方やその社会をどう構築するか、カーボンリサイクルによる低炭素社会化を中心に議論します。一方、低炭素社会化のイノベーションを加速させ、インフラ整備を幅広く支援する仕組みも必要とされており、ESG投資という世界的潮流を踏まえて考えます。

プログラム

1. 開会の挨拶

コーディネーター：柳教授

2. カーボンリサイクル研究の現状

2050 年度目標達成に向けた温暖化法政策

早稲田大学 大塚教授

カーボンリサイクルを切り開く膜技術

明治大学 永井教授

アジア域のカーボンリサイクルの社会実装

明治大学 小松専門研究員

3. 低炭素社会化に向けた仕組み作り

環境インフラの海外展開を支援する「QI-ESG」

国際協力銀行 佐藤氏

4. 来場者との対話

日時

令和1年11月23日（土）
15：00～16：30

会場

アカデミーコモン2F ROOM-B

主催：

明治大学
環境法センター

問合せ先：メールにてご連絡下さい
ccs2016@meiji.ac.jp

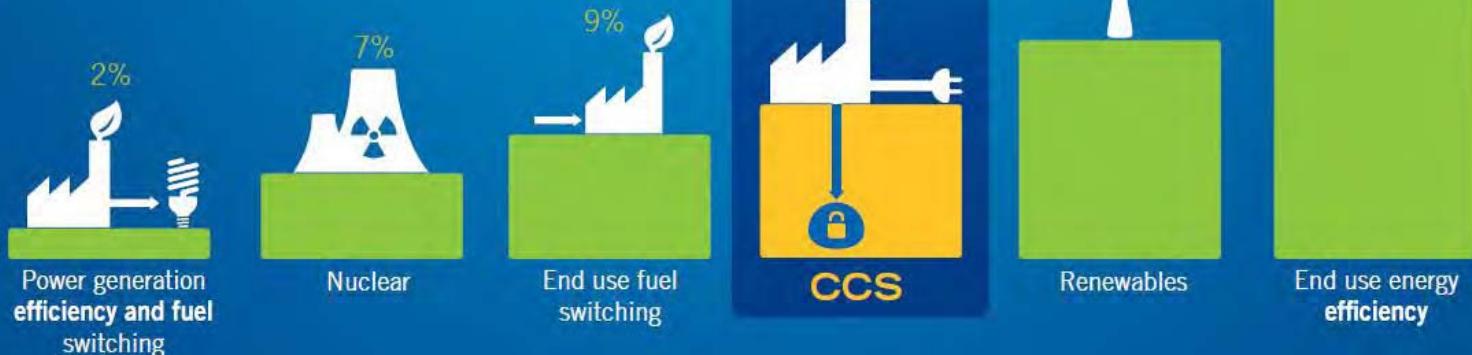
このプログラムは下記の研究費の
成果の一部が含まれています。

環境研究総合推進費

科 研 費
KAKENHI

REQUIRED TECHNOLOGIES AND ACTIONS

As part of a portfolio of actions, CCS accounts for **14%** of total energy-related CO₂ reductions needed by 2050. (source: IEA, 2014)



発表者のプロフィール

コーディネーター
柳 憲一郎

明治大学法学部専任教授・博士(法学)

現在、東京都環境影響評価審議会会長、2020年東京オリンピック・パラリンピック環境アセスメント委員会会長、(公社)環境科学学会会長等を務める。科研費及び環境研究総合推進費のCCS研究プロジェクトの研究代表者である。

大塚 直

早稲田大学法学学術院・大学院法務研究科教授

現在、環境法政策学会理事長、(公社)環境情報科学センター理事長、日本土地環境学会常務理事、環境省中央環境審議会委員等を務めるほか、司法試験委員(環境法)等を歴任。わが国の環境法研究の第一人者として、多くの環境法の著作がある。

佐藤 勉

株式会社国際協力銀行 電力・新エネルギー第2部次長兼地球環境ユニット長

これまで国際協力銀行(JBIC)の途上国向け環境ファイナンスの立案・実施にたずさわるほか、国際開発金融機関等との連携も担当。環境省「気候変動緩和策に関する国際協力のあり方検討会」委員、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)技術委員等を務める。

永井 一清

明治大学理工学部専任教授・博士(工学)

ISO TC61/SC11プラスチック製品委員会国際議長、ISO TC229/WG4ナノテクノロジー委員会エキスパート、RITE次世代型膜モジュール技術研究組合研究推進委員会委員、オーストラリアCO2CRC膜分離プロジェクトリーダー等を務める。専門は、膜分離、高分子化学、国際標準化等である。

小松 英司

明治大学環境法センター専門研究員・博士(理学)・技術士(環境部門)

これまで国立環境研究所、大学、民間環境コンサルタントの研究員等を歴任し、本学環境法センター専門研究員に従事するとともに環境分野の大学発学術機関ベンチャーを経営する。本学では、CCUSの法政策研究の他大気保全政策、温暖化政策の研究を行っている。

